

平成24年度臨床研究テーマ成果報告書

<p>診療科（部）名：口腔補綴科</p>
<p>研究期間：平成23年5月～平成25年3月</p>
<p>研究課題名：双生児研究による睡眠時ブラキシズムの発現に關与する遺伝要因・環境要因の解明</p>
<p>研究課題の概要及び成果：</p> <p>睡眠時ブラキシズムは口腔領域における異常機能の一つであると同時に、睡眠障害に關連することが知られている。睡眠時ブラキシズムは、齒の咬耗、破折、補綴装置の破損、および顎口腔機能異常の誘因とされている。睡眠時ブラキシズムの病因については、きわめて多岐にわたる報告がみられるが、病因は確定されていない。近年、遺伝子多型の影響が睡眠時ブラキシズムに關連していることが示唆され、いくつかの報告がなされているが、研究デザインとして、睡眠時ブラキシズムの有無を質問表や咬耗の有無のみで判断しているため、あくまで推測の域を出ていない。本研究では、成人双生児集団を対象として、睡眠時ブラキシズムと遺伝的因子およびライフスタイルや社会経済的要因を含めた環境的因子の關連を明らかにすることを目的として、大阪大学大学院歯学研究科・歯学部附属病院倫理委員会の承認を得て (#H22-E40)開始した。</p> <p>現在 42 組 84 名の双生児を対象とし、大阪大学大学院医学系研究科ツインリサーチセンターの協力を得て、データの収集および量的遺伝学的解析を進めている。これら 42 組の双生児のうち、26 組は一卵性、16 組は 2 卵生である。また、睡眠時ブラキシズムについては、実際に被験者の自宅において、筋電図記録・自動解析装置 (Grindcare 3.0, Medotech A/S)を用いた睡眠中の記録を連続した 3 夜にわたり行い、同時に、Symptom Checklist-90-Revised (SCL-90-R, Pearson)、Tokyo University Egogram II (TEG II, Kanekoshobo)を始めとする質問表に回答させることにより、遺伝要因、環境要因の双方について調査を進めており、平成 25 年度中に成果報告を行う予定である。</p>
<p>上記概要・成果に關連する図表等</p> <p>図：構造方程式モデリング (ACDE モデル)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A. 相加的遺伝効果</li> <li>D. 非相加的遺伝効果</li> <li>C. 共有環境効果</li> <li>E. 非共有環境効果</li> <li>T. 表現型 (EMG 活動の 1 時間当たりの回数)</li> </ul> 